

宇宙のかたすみで

千葉県印西市立原山中学校 2年A組

第1詩

われら星の子 宇宙の子
海に生まれ大地に育ってきた私たちの体には
はるか百数十億年の
宇宙の歴史が刻まれている
ほら今日もどこかで小さな光が

山崎 直子さん（宇宙飛行士）

第2詩

知りたいのははじまりの瞬間 その音その色匂いと手ざわり
はじまりは いつもこころをひきつけてやまない
日本語ひらがな五十音は なぜ あ い という二文字からはじまるのだろう

覚 和歌子さん（詩人）

第3詩

メロディーが流れる
今ある意味を探るとき
逢いたい人を想うとき
初めて口ずさんだ歌は忘れたけれど
生まれる前から覚えているこの旋律

印南 明美（国語科教諭）

第4詩

私が生まれた時のことを私の親は覚えているだろう
地球が生まれた時のことを宇宙は覚えているだろう
宇宙が生まれた時のことはだれが覚えているだろうか

黄 起範

第5詩

日の光にあたると優しくなれる
森の中に立つと心が落ちつく
風にあたると心がさわやかになる
海を見ていると自分の小ささを知る
そう感じるのは私だけだろうか

小室 浩平

第6詩

帰り道 木から落ちてくる葉
あの葉はいったい
木とどんな人生を送ったのだろう

井原 真由美

第7詩
卒業まであと一年と少し。
入学してから今日まであつという間だったし
これから卒業までもあつという間なんだと思う。
だから私は一日一日を楽しんで
今この時を大切にすごしたい

宮川 碧

第8詩
人は生まれたのと同時に、人生というコースを走り始める。
さか道や山もあるけど、このコースは長いようでみじかい。
これから先、私はリタイアしたり、道はずれたりしないだろうか。

磯貝 美都季

第9詩
また朝がやってきた
眠い目をこすり、カーテンを開ける
ふと見上げると、
どこまでも続く青い空
よし、今日も頑張ろう

長谷川 椿

第10詩
剣道一級審査おちてしまった
だがおれはくじけない
半年後にむけ毎日練習だ！

小菅 七海

第11詩
イスに座ってぼ~っと外をみていると
テストの点なんてどうでもよくなってしまふ。
いいなあ、あの鳥にはテストないもんなあと思う。
そんなこと思っても私はテストから逃げられないけれど。
来年の私を思うと、今のままでは少しつらいな。

吉岡 栄子

第12詩

演奏後「よかったよ」の一言で
今までの努力がむくわれたような気がする
この先も人の心に残る音楽を

早川 夏帆

第13詩

人の心の奥には、いろいろな思いがある
嫌なことをいわれ傷ついたり
うれしいことをいわれ喜んだり
こういうことをいわれてなにも感じない人は、人であっても人ではないと思う。
だから私は、大切にしたい。人でありたいから。

木佐 友亮

第14詩

なかなか布団から出られない時
なぜだろう
とても冬だと思う

服部 未亜

第15詩

勉強したくない。
苦しい思いをしたくない。
もっともっと遊びたい。
好きなことだけしていたい。
そういうわけにはいかないだろうか。

樋口 紗羅

第16詩

土日の昼 ぼくらはグラウンドにいた
自分の仲間を信じ ボールをはずける
ボールを回し 得点を決めよう！！

武田 拓也

第17詩

卓球をやっているときに思う
頭の中では分かっているも なかなか足が動かない
そしてそのあとから また同じミスをしてしまう
同じミスはしない フットワーク完璧
そんな選手になれたらいいのに

蟹瀬 彩華

第18詩

掃除のあとのバケツの片づけ
きまった三人で取り合いになる
バケツに届くまでもう少しあと少し

鍵山 葉月

第19詩

12月31日
もうすぐ2009年
お年玉いっぱいもらえるといいな
初夢になすとかでるといいな
そんなことを考えてる

川尻 洸平

第20詩

上手に楽器を吹けるようになりたい
百点とれるくらい頭良くなりたい
思っている事全部叶えば悩む事なんてないのにお

横井 美緒

第21詩

予餞会まであとわずか
自分に希望を持ちながら
3年生にとって良い思い出になるように
一つ一つ一生懸命にやり、
いい発表を送りたい。

東 丈夫

第22詩

昨日見た星と今日見た星
今日見た星の方がきれいな気がする
これは大人に近づいている証拠なのだろうか

橋本 瑞穂

第23詩

いつものように目を覚まし
いつものように家を出た
外はとっても冷たくて息をハーとすると出る白い息
春はポカポカでピンク・黄色・緑と色いっぱいになるんだろうな。
早く春が来ないかなあ。

野田 琴乃

第24詩

冬の部活 寒くてラケットを持つのが大変
つい手をポケットに入れてしまう
でも寒さに負けず頑張らないと

武内 唯菜

第25詩

おみやげのあまりをめぐって
みんなでジャンケン
小さいけれど大きな一個
何を出そうか迷ってしまう
みんなの心が読めたらいいのに

大森 春奈

第26詩

大きな体で小さな音色
みんなのように目立たないけど
いつも隣で語ってくれる それが私のパートナー

増本 高子

第27詩

今日も霜柱が立っている 時間がないけどふんじゃえ！
公園の隅っこには一本の梅の木がポツリとつぼみをつけていた
冷たい空気の中で 何か暖かさを感じる
私の冬の楽しみは
寄り道をしながら登校すること

宗田 慧美

第28詩

今日は一斉下校だ
いつもはいっしょに帰れないみんなと帰れる
さて 何を話して帰ろうかな

山本 竜也

第29詩

仲のいい友達と
何も考えずに楽しく過ごし
今はとてもサイコーだ
けれども
来年の今頃は

長谷川 尚紀

第30詩

昔は何も思わず遊んできたが
もう昔の自分には戻りたくない
だから昔の自分には負けたくない

高橋 稜汰

第3 1 詩

今 僕が見ている星たちは
僕が生まれる前から光続けている
星にとって 人の一生なんて一瞬なのかもしれない
なら僕はその一瞬に
全力を出して生きたい

伊庭 渚

第3 2 詩

人が今生きているのは
奇跡がつみかさなったからだと思う
その人生をなによりも大事にしていきたい

安井 大裕

第3 3 詩

ふと幼い自分に戻りたくなる時がある
すべてが輝いて見えたあの頃に
年が増えるごとに
夢が現実になっていく
大人になるってどういう事なんだろう

白石 賢人

第3 4 詩

未来 今 過去
今が大事だと思う
だから今を楽しみたいのに中学生は忙しい

平川 翔大

第3 5 詩

未来に向かって
一日一日を大切に過ごし 歩きだそう
つらい事や うれしい事
それを乗り越えれば
輝く自分に会えるだろう

土井 宏美

第3 6 詩

透明な筈なのに黒い宇宙
その中で小さく光っている星
暗い宇宙と明るい星、俺はどっちだ？

島田 耕作

第37詩

青い空 黒い宇宙
あたたかい空 つめたい宇宙
知ってる空 知らない宇宙
思いよ届け
この宇宙へ

A組一同